

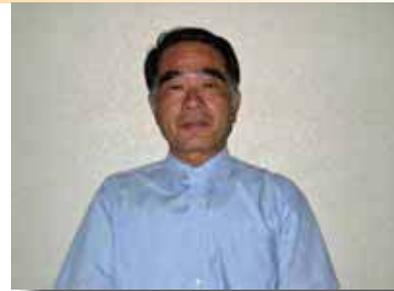
直島北部地域のハゲ山緑化に関する研究

工学部 安全システム建築工学科 増田 拓朗 教授

戦後、瀬戸内地域は至る所にハゲ山がみられましたが、その後の緑化事業により、多くの地域で緑が回復しました。しかし、直島北部地域ではなかなか緑化が成功せず、現在もハゲ山が広がっています。適切な緑化手法の確立に向けて 2002 年から現地において緑化試験に取り組んでいます。

調査のきっかけ

今、直島はアートの島として脚光を浴びていますが、北部地域にはハゲ山が広がっています。私が最初に直島を訪れたのは 2001 年。香川県環境森林部の依頼で現地を見て回ったのですが、正直、驚きました。「長年緑化に取り組んでいるが失敗の連続でお手上げの状態です。協力してくれませんか」という依頼を受け、調査に取りかかりました。



工学部 増田 拓朗 教授

取り組みについて

2001 年に現地調査を行い、緑化失敗の主要な原因は土壌条件にあることを明らかにし、2002 年から緑化試験（土壌改良試験）を開始しました。2002 年に 2 ヲ所（試験地①②）、2003 年に 3 ヲ所（試験地③④⑤）、2006 年に 1 ヲ所（試験地⑥）の計 6 ヲ所の試験地を設定して試験を行い、それらの試験結果を基に、望ましい緑化手法を提案しました。県の試験（5 ヲ年計画）としては 2006 年度で終了しましたが、四国電力グループの協力もあり、2007 年には石炭灰を土壌改良材として用いる試験地⑦を設定し、現在も調査を継続しています。

植栽木の生育調査、土壌分析およびデータ整理には学生の協力が不可欠ですので、卒論および大学院の修論として毎年誰かが直島の研究を担当することとし、現地調査には研究室全員出動であたることにしました。研究室全員が進んで協力し、2001 年から 2008 年の 8 年間で卒論として 13 人、修論として 6 人が研究をまとめました。



直島北部地域のハゲ山の状況（2001 年）



施工前 (2001年12月)



施工2ヶ月後 (2002年5月)



施工6年後 (2008年7月)



試験地⑦の調査風景 (2008年7月)

試験地⑦は2007年5月設定
写真左上の緑は、2003年4月に
設定した試験地③

今後について

この間、2004年1月には直島中部で大きな山火事が発生しました。香川県および直島町一体となって山火事跡地の緑化に取り組んでいますが、本研究室のメンバーを中心に本学科から毎年10数人が植樹ボランティアとして参加しています。直島のハゲ山が緑で覆われる日が来ることを期待して、今後も直島の緑化に取り組んでいきたいと考えています。



植樹方法の指導を受ける参加者



みんなで植樹に挑戦



学生も、教員も、一所懸命植樹!

